

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105920		
法人名	有限会社 和(なごみ)		
事業所名	グループホーム やすらぎ東古松		
所在地	岡山市北区東古松南町4-35		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105920&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成24年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の親が安心して預けられるグループホーム。
そして入居してバックを支えている家族も将来入りたいと予約したいホーム。
現在入居している方々に感謝されるホーム。(地区の小学生が取材に訪れて「こんな所が一杯増えたら家族も楽で私も楽しいのになあ」と入居者が言っていた。)
そして退去後も家族の方が訪れるホームです。又、介護度が良くなって、小規模多機能に移って頂く例も多くなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

我が親も預けられるホームをと言う想いを抱いて福祉施設を立ち上げたと言う話はよく聞かすが、この管理者は実際にその夢を実現し、当の母親は百二歳で相も変わらずかくしゃくとしておられる。「よりアットホームな暮らし」を目指す為、定員6名でスタートして7年を経過したが、昨秋ホームを改修して今春9人で新しい出発を目前にしている所である。利用者・職員が増え、業務の在り方も見直したり新規に試行する事も多いだろうが、「やすらぎ東古松」の基本理念は揺るぐ事なく踏襲されるのではないかとと思われる。このホームの売り、例えば「少量で品数豊富・美味しい食事」や「毎日の散歩や心身のリハビリ」等は、是非継続して欲しいと願っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のみならず往診に来て下さっているドクターが将来はこのホームに入りたいと言って下さっているし、近くの住民も「入る様になったら入れて下さいね」と言っている。	ホーム開設以来「グループホームの果たす役割やあるべき姿」を念頭に置き、管理者・職員共に一路邁進している。このホームのより手厚いケアによって介護度が下がり、在宅や小規模多機能ホームへと移行している例も見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達が(大人も子供も)時々庭になっている柿や田舎から送って来たと言ってみかんや野菜の差し入れをして下さったり犬や猫と一緒にホームに立ち寄り下さる。	町内行事の夏祭りや秋祭り・公園での餅つきにも参加してすっかり地域の一人となっている。また、日常的には近所の散歩での交流を始めとして、近くの子供達がホームに遊びに来てくれたり、お花を届けてもらったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回催される地域の人達の会合に出席、情報交換している。ホームが6人から9人になる為、ホームを見学して少し体験して頂く様に地域の人におすすめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の人に介護保険の詳しい話をしたり疑問点についてもいつも誠意を持って答えたり話し合いをしている。又、地域の高齢者と会食しながらの集いもしている。	利用者がほとんど毎日、我が庭のように楽しんでいる公園の一角にある集会場で、地域の人達が集り情報交換をしている。その場でこのホームをより理解してもらったり、地域交流の場を深める為の話し合いをしている。	運営推進会議の形を広義に補え、良いと思われる事は積極的にチャレンジしてみたい。交流のある他のホームと合同で開催してみても良いし、集会のメンバーをホームの行事等に少しずつ招いてみるのも良いかもしれない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは地理的に近く(同じ小学校区)でもあるので度々密に連絡を取っており、担当者とは全てにおいて把握して頂いている。	管理者は今回の増床改築工事に関しても、関係の市の担当者と綿密に連絡を取り、逐一相談し指導を受けている。各担当者もホームの立場に立って適切なアドバイスをしており、リニューアル目前となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に施錠しておらずドアホンをしないでいきなりドアを開いて訪問される事も多い身体拘束は一切ない。	ホームの共用空間が職員の目が届き易い設計になっている事やその他の要因も加わって利用者への目配りがよくできている。今後利用者の人数が増えても今の状況はあまり変わらず、身体拘束は考えられないと思う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は常に学ぶ機会を持ち近隣のグループホームと連絡を取り情報を交換している。又、それらを活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員もあらゆる方向にアンテナをはり情報を共有し運営に反映させている。又家族にも出来るだけホームを訪問して頂ける様こまめに電話をして情報を流す様にしている。	管理者は家族との連絡は格別重要な事と考えており、色々なチャンスを補えてよくコミュニケーションをとっている。利用者に対して職員は丁寧にその人の意向を聞き取り、できる限り意に添うよう配慮している。	前年度家族へのホームのたよりが実現したが、現在は中断しているとの事。現在はこのホームが生まれかわる時なので、中断はやむをえないと思うが、また良い時期に再開して欲しい。ホームのたよりは色々な意味で良い宝物となるだろう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見や提案を聞いてその都度すみやかに反映させている。又、時々外で食事をしながらのミーティングもして話し易い雰囲気も作っている。	日々の業務の中で細やかに相談や連絡がその都度行われている様子がよく伺えるが、新しい局面を迎えようとしている現在、その重要性がより高まっている。代表者・管理者・職員の意見交換や共通理解が今後の課題かもしれない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ休日等の条件を十二分に取り入れるように管理者は努めている。個々の職員が力を出し切れる様に職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人が研修で学んだ事を職員が職場で発揮できる様又色々な事を深く考える様にトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームやデイサービス、小規模多機能の業者の方のネットワークで助け合ったり教え合ったりお互いに協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからかなりの時間、特別に余分な人員を配置して早く慣れて頂く様配慮している。本人が希望する事は出来るだけ受け入れて差し上げ、家族との電話も希望通り度々してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には家族に頻繁に電話等で連絡を入れ状況報告をして不安をなくす様に努めている。又細かい事でもこまめに情報を電話で入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今一番望んでいるサービスを家族の身になって対応に努めている。例えば内科・皮膚科・歯科の診察は家族の代わりに支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべくして差し上げるのではなく自分のやりたい事を尊重して見守りしながらして頂いている。例えば洗濯量など出来ない人でも支援しながら一緒に手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と頻繁に連絡をとり、共に見守ろうと呼びかけている。又誕生日などには家族も一緒に祝いの席について頂ける様頼んだりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来やすい様に支援又連れ出して頂いて途切れない様にしている。又連れ出しが難しい家族に代わってこちらからドライブ等連れ出して馴染みの人達に会える様配慮している。	入所前の、また入所後の馴染みの人との交流を職員は大切にしている。元小学校の先生で百歳を超えたYさんを教え子が訪ねているアルバムを見せてもらった。また、利用者が入院したり、他へ移動しても関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々トランプや他のゲームを一緒にして連帯出来る雰囲気を作り出している。皆と一緒に歌を歌ったりして楽しんだり個々が好きな事をして頂いて(例えば手芸や塗り絵・写経等)個人を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻ったり他の施設に移っても訪問してその後の様子を確認している。他の施設に移って亡くなった方も家族が盆暮れに訪ねて来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を取り入れそれに添う様努力している。例えば家事が得意な人には洗濯畳や掃除を手伝って頂いたり、そうでない人は脳の刺激となるジグソーパズルや百人一首・手芸・写経等で楽しんで頂いている。	職員は意志が十分伝えられない利用者に対しても、粘り強くその人の表情やしぐさから意図を探る努力をしている。日中のリビングでの活動の場面で、積極的に脳トレ等の誘いかけはしても、本人の意志を十分尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から出来るだけ詳しく聞き取りそれらに合わせて好き嫌いもなるべく希望に添う様にしている。いつの間にか嫌いなものも無くなっていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調に合わせてなるべく活動的に過ごして頂く様努力している。朝は毎日室内で体操風船バレー等で体を動かし、午前の散歩は車椅子の人、シルバーカーの人、杖の人とその人に合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの家族、本人の意見を尊重、職員とディスカッションをしてそれらを反映して介護計画を作成している。	「自分でできる事は自分でしたい」といった本人の訴えをケアプランの本人の希望欄にうたって尊重したプラン作成・モニタリングを実施している。入居後、心身の状態に改善が見られた人も多いと聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の共有でその都度気付いた事は連絡ノートや会議録で詳しく情報が共有され密に連絡を取って介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合で対応出来ない様な時でも管理者がそれを補いサポートしている。 例えば入院しても毎日病院に顔を出し洗濯物はホームで洗って病院に持って行ったり通院もホーム側ですることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2カ月に1度ぐらいある町内の行事にも積極的に参加しており町内の一員としての役割を楽しんでいる。 例えば地域の盆踊り・お祭り・もちつきに同居者も参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは深夜でも携帯で連絡が出来安心して任せられ適切な医療を受けられている。 ホーム側からも密に連絡してどんな症状も見逃さず共有している。	数ヶ所のかかりつけ医とは緊密な連携が取られているし、月2回の往診もあるので安心できる。必要な時の受診は主として管理者が付き添うので状況がよく理解できて良いが、家族が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はプロの気づきで適切なアドバイスがあり即行動が出来ている。 例えば薬が変わったりした時など副作用の出方に注意して観察、ドクターと協力して処置出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中は家族以上に病院とは密に連絡を取り家族に代わって洗濯物の交換等ホームで行っており主治医からも家族と同様に扱ってくれて情報も家族と同時に下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて今後の事は家族と密に連絡をとりその時々状況に即して支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、安易に取り組む事をしないよう、慎重に対処しようとしている。その都度家族やかかりつけ医、職員とよく話し合い、ふさわしい環境が調ってから支援に取り組む。看取りはその人の人生の中でも最も大切にしたいステージなので、今後も、このテーマは課題としていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターの指示を仰ぎ救急車が来るまでバトタッチが出来る様血圧等色々な情報がすぐ届けられる様職員も訓練出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すべての部屋より出口に直結しているので迷わず時々の訓練と同じに避難できる。 年2回の訓練では短時間で避難出来ており体の不自由な人には職員がつき自分一人で避難出来る人は声かけしながら訓練している。	今回の改築で火災報知機も付け、年2回実施している避難訓練では利用者も参加している。急変や事故発生時の緊急対応も、さらに徹底したいと考え、昨年度目標達成計画に掲げて取り組んできた。	火災の他にこの地に起きるかもしれない地震・津波災害に対して、さらにきめ細かなシミュレーションをして備えておいた方が良いと思う。いざという時応援してもらえ近所の人にもホーム内の様子を知っておいてもらいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は年長者に教えて頂く様に誇りを損なわない様声かけをしたり又なるべく昔の元気だった頃得意だった事を聞いて自信を取り戻してもらっている。	「本人の意志を尊重する」という事に重点を置いている当ホームだが、昨年度の目標達成計画にこの項目を掲げ取り組んできた。この取り組みは「もうこれで良い」という事は無いので継続して振り返りを続けると言う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの様にしてもらいたいのか時々希望を聞いたり喫茶店等にも連れ出したりしている。外食も時々行き、今年は吉備路に3台の車でドライブ小旅行を楽しんだ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中、雨の時以外は散歩に出るが行きたくない時はホームにいて他の事が出来る様希望に沿っており、庭に出て、日光浴をして頂いたりもする。又家族と一緒に出かけたりホームから祝事や法事にも出席している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日はどんな服が良いのか個々に聞き選んでもらったり時々マニキュアやお化粧品も職員が手伝って頂くとても楽しそうにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事は味はもちろん色でも楽しんで頂き希望を聞いて希望に添った献立にしたりしている。毎月1日は赤飯、行事会はお寿司で御馳走を作っている。又誕生日などは家族と一緒に会食して頂いている。	利用者の「元気の元」の第一が「食べる事」と思う。ホーム開設以来延々と続けている献立日記は諸々の事を物語っている。外食も含めて自分達で作る巻寿司・おにぎり・ギョーザ・お好み焼・たこ焼・ぜんざい等、「作って楽しむ」しかけも嬉しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなるべく多く取って頂ける様三度の食事以外にも10時・15時のおやつ以外にも度々口にして頂く。管理栄養士も居て、栄養的には1日に30品目を摂取出来るのを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っており、その都度入れ歯のチェックも行っている。又週1度は入れ歯洗浄液で清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援	排尿パターンを職員が把握して声かけして全員トイレに誘導しており失敗を極力少なくしている。入居の時紙パンツだったのが布パンツや失禁パンツに改善される例が多い	パンツやパットの種類・使い方を一人ひとりに対応した組み合わせをして、効率良く、また費用にも配慮して支援している。トイレ誘導もその人に合わせ、言葉で伝えられない人の表情やちょっとした動きからも察知してタイミングの良い支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取の他便が出易くする薬でこまめに調節出来ているので個々に排便で困る事は殆どない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が望ましいが隔日には必ず入浴。又排便等により連日も実施。ゆったりしたい人には個々にそって歌を歌ったり楽しくおしゃべりしながら入っている。	昼食後から3時のおやつの間位に一日置きに入浴を楽しんでいる。入浴を強く拒否する人は今の所居ないので、それぞれに良い時間を職員と共有している。入浴についても、出来る事は可能な限り自分でしてもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもベットで休息出来るがなるべく日中はリビングで過ごして頂く為、夜は安眠出来ていて昼夜逆転する様な事はない。もしその兆候があればドクターと連絡を取って軽い眠剤で殆ど解決しており基本的には薬は少なくしていく方針を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターと密に連絡を取りながら用量も抜いたり追加したりと変化に応じて支援している。症状の変化には管理者に即報告がありドクターより受診の必要があればすぐ連れて行き診察して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	町内の行事に参加したり誕生会や外食・お花見等きつくならない様に気を配りながら支援している。又編み物や刺繍の完成で達成感も味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中、雨でない限り散歩に出かけ、町内行事にも積極的に参加し顔馴染みとなっている。喫茶店・友人宅・病院への外出も家族同様に支援している。家族の祝事や法事等も積極的に(ホームで送り迎えをしたりして)出席出来る様支援している。	今朝も朝のお茶の後は、「行かない」という人は残してお散歩。毎日のように歩き、朝日にあたる事も「元気の元」だろう。行事としての外出以外に、思いついてスーパーへウインドウショッピング・喫茶店へ等、よく出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にホームより職員と一緒に連れだっ て出るがそれぞれに欲しいものを買って頂 きホームで支払いしている。すべてホームの 食費として支払い本人から頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話がしたい時は電話をかけて頂いたり手 紙を書いたものをポストに入れたり支援して いる。又かかってきた電話も電話口に出て 頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にリビングを飾りその飾り物も一緒に 作成したりしている。花々も庭に植えたり室 内に生けている。夏には庭に野菜も植えて 実りの楽しさを味わって頂いている。	日中は全員ほとんどリビングで過ごす事が 多く、食事・おしゃべり・ゲームやパズル・手 芸等の脳トレの活動、洗濯物畳み等の作業 の場となっている。ホームの畑や近くの公園 も共用空間の延長としてよく活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	同じテーブルの人との話で職員は見守りし ていて話に花が咲いている時は聞き役に徹 している。又、一人になりたい人はソファ に座って、一人を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	自分の家で使って頂いた物を持ちこんで頂 き安心して居室で過ごして頂ける様に支援 している。読書の本、趣味の本など家族も自 由に差し入れている。又仏壇の持ち込みも されている方もいる。	ほぼ全員居室を寝室としてのみ使っている のは皆元気な証拠だ。そして仏様をお祭り し、職員が本人に代ってお茶湯をお供えす 等、本人の希望を尊重した支援もしてい る。北側の居室等については、採光その他に も配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	職員に余力があるのでゆったり見守りが出 来ている。余りこちらが手を出さず、なるべく 時間はかかっても自立に近づけている。又ト イレには「トイレ」と書き「洗面所」や各個室 に名前を書いて判り易くしている。		